



カン・チョウンは画廊内に2枚の絵画を含めたインスタレーションを行い、事務所に6枚の絵画を並べた。インスタレーションのタイトルは《あなたの停まっている時間》であり、絵画作品は同タイトルにaからhが付け加えられていることから、インスタレーションのバリエーション、若しくは総体としての展示であることが伺える。

息しているという不気味な感触は一切存在しない。それを支えているのが、空間に配置された2枚の絵画なのである。入口に展示してある作品は緑、黄、橙、青といった暖系と寒系の色彩が絡み合い、躍動感に満ちている。インスタレーションは此処から発生/収斂されるのかと思いきや、よくよく見るとピンクのインスタレーションの中央に、



カンにとって日本の印象はピンクであると言う。中央に位置する立体は布で形成され、壁面と床面はカットティングシートと透過性のあるビニール的な素材、プラスチックで造られた昆虫のような顔にも貝殻にも見えるオブジェと中央の立体、その他様々な場面を繋ぐのは糸である。



ピンクの絵画が据えられている。インスタレーションの一部であるのだから当然なのだが、意識して探さないと発見できないほど、インスタレーションと同化している。インスタレーションのどの部分と比べてみても曲線が満ち溢れ、胎動する生命感がインスタレーション総ての局面に響き亘る。

するとカンのインスタレーションは、2枚の絵画を動機とし、二つの作品の間に彷徨う果てしない旅であると解釈することが出来る。



画廊の白い壁面に蛍光灯が強く灯され、作品は眩いばかりのハレーションを起こす。ショッキングピンクという人工的な色彩の中に有機的な造形物が横たわり、空間全体は呼吸するような生命感を宿しているにも関わらず、異物が生



旅が行われるのであれば、もしかしたら他の絵画作品からも発するのかも知れない。事務所に展示された絵画作品群は、抽象的な世界観よりも、人物の表情が動機となっている。カンのインスタレーションには、人間が綿密に織り込まれているのだ。人間が抽象化され、断片と化し粉々に砕かれた状態の中で、疎外され粉塵と化し、戻ることが出来ない状況をカンは決して描かない。カンが求める世界観とは、人間が拡張することなく己のままていることなのではないかと私は思う。

